

## 新エネルギー開発に想う

新エネルギー総合開発機構 理事長 綿森 力

新春にあたり、巻頭に愚見披瀝の機会を与えていただき光栄である。

幸い、わが国のエネルギー事情は、需要面で一次エネルギー消費対 GNP 原単位が48年度比で、昨年度は約68.7%へと低減し、供給面でも一次エネルギーに占める石油の依存度が6割を切るなど、夫々着実な低減を見せている。

また、当面の国際石油情勢は、需給緩和が継続し、価格も軟調で推移する様相である。

しかしながら、わが国の石油依存度が主要先進国に比べ依然として高く、特にホルムズ海峡への依存度が高水準にあるといったエネルギー供給構造の脆弱性は、大きくは改善されていない。

他方、中東情勢も好転材料を見出し得ていない上、中長期的には石油の需給逼迫化も予てから指摘されているところである。

こうした点から、エネルギー資源小国のわが国がその長期安定供給確保にむけた不断の努力を傾注する必要があることは言うまでもない。また、高度情報化や国民生活の質的高度化といった社会構造の変質と相まったより強固な供給基盤の確立が求められつつある。

既に、電気事業の皆様方の先見のご努力によって、原子力や天然ガスなどの石油代替エネルギ



ーが定着期に至っているが、自らの技術開発努力によって、自らのものとして新たに利用が可能となる太陽エネルギー、石炭液化・ガス化、燃料電池などの新エネルギーの導入により、一層の多様化・多角化を促進することも重要と考える。

わが国の新エネルギーの技術開発は、確立にむけ、着々と成果を上げつつあるが、克服すべき課題もまだまだ多く残っている。特に、既存エネルギー供給体系との調和が必要となってくること、また、十分な経済性を達成するに至っていないことが大きな課題である。この点、政府の制度的・財政的助成策の拡充が不可欠であるとともに、エネルギー供給産業の皆様方からの倍旧のご理解とご支援が必要であり、それらによって新エネルギーの導入は加速的に進み得るものと期待している。

NEDO は、わが国の中核的機関として、新エネルギー開発を担務してきたところであるが、今後ともプロジェクトの重点的選択や資金の効率的活用に努力する所存である。

末筆ながら、貴社知多第二火力発電所におけるリン酸型燃料電池発電技術開発につき、貴社から特段のご協力をいただいております、感謝申し上げます。

### 表紙写真説明

### 建設中の 500kV 伊勢幹線

500kV 伊勢幹線は、三重県南部方面電源の電力を輸送するために、62年完工を目前に建設している。この送電線は、系統安定度面から制約される送電容量を増大させるため、大束径6導体方式を採用している。採用に当たり、冬季気象条件の厳しい竜王山に試験線を建設し、着氷雪の観測を始めとする各種試験を行い、その成果が設計に反映された。